

CASBEE-建築(新築)2024年版 大山崎町複合化施設新築工事		■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2024年版 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.22				
スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.6
Q1 室内環境			0.40		-	2.4
1 音環境		2.6	0.15		-	2.6
1.1 室内騒音レベル	—	3.0	0.40		-	
1.2 遮音		3.0	0.40		-	
1 開口部遮音性能	—	3.0	0.73		-	
2 界壁遮音性能	—	3.0	0.27		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)	—		-		-	
1.3 吸音	—	1.0	0.20		-	
2 温熱環境		1.7	0.35		-	1.7
2.1 室温制御		2.4	0.50		-	
1 室温	—	2.0	0.38		-	
2 外皮性能	—	2.3	0.25		-	
3 ゾーン別制御性	—	3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御	—	1.0	0.20		-	
2.3 空調方式	—	1.0	0.30		-	
3 光・視環境		2.4	0.25		-	2.4
3.1 昼光利用		2.5	0.30		-	
1 昼光率	—	2.3	0.60		-	
2 方位別開口	—		-		-	
3 昼光利用設備	—	3.0	0.40		-	
3.2 グレア対策		1.0	0.20		-	
1 昼光制御	—	1.0	1.00		-	
3.3 照度	—	3.0	0.17		-	
3.4 照明制御	—	3.0	0.33		-	
4 空気質環境		3.5	0.25		-	3.5
4.1 発生源対策		4.0	0.50		-	
1 化学汚染物質	JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。	4.0	1.00		-	
4.2 換気		3.7	0.30		-	
1 換気量	建築物衛生法を満たす換気量1.4倍以上となっている。	5.0	0.33		-	
2 自然換気性能	図書室部分:自然換気有効開口面積が居室床面積の1/30以上。	3.3	0.33		-	
3 取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.33		-	
4.3 運用管理		2.0	0.20		-	
1 CO ₂ の監視	—	3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御	—	1.0	0.50		-	
Q2 サービス性能		—	0.30		-	3.0
1 機能性		2.2	0.40		-	2.2
1.1 機能性・使いやすさ		2.5	0.40		-	
1 広さ・収納性	—	3.0	0.23		-	
2 高度情報通信設備対応	—	1.0	0.23		-	
3 バリアフリー計画	—	3.0	0.55		-	
1.2 心理性・快適性		1.6	0.30		-	
1 広さ感・景観	—	1.0	0.23		-	
2 リフレッシュスペース	リフレッシュスペースが執務スペースの1%以上	4.0	0.23		-	
3 内装計画	—	1.0	0.65		-	
1.3 維持管理		2.5	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	—	3.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保	—	2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性		3.4	0.30		-	3.4
2.1 耐震・免震・制震・制振		3.8	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた25%増の耐震性を有する。	4.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	2.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	—	3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	—	3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水SGP-VA(B)、排水VP(B)、消火SGP-W(C) 主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用。	5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		2.8	0.20		-	
1 空調・換気設備	—	3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備	—	3.0	0.20		-	
3 電気設備	—	3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法	—	3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備	—	2.0	0.20		-	

3	対応性・更新性		3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	空間のゆとり		4.4	0.30	-	-	2.0
1	階高のゆとり	階高3.0m以上。	5.0	0.41	-	-	3.0
2	空間の形状・自由さ	0.1≦[壁長さ比率]<0.3	4.0	0.59	-	-	2.5
3.2	荷重のゆとり	-	3.0	0.30	-	-	2.5
3.3	設備の更新性		3.4	0.40	-	-	2.5
1	空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	2.5
2	給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	2.5
3	電気配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線、二重天井内により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	2.5
4	通信配線の更新性	ケーブルラック、配管内配線、二重天井内により構造材・仕上材を痛めずに更新・修繕ができる。	5.0	0.10	-	-	2.5
5	設備機器の更新性	-	3.0	0.20	-	-	2.5
6	バックアップスペースの確保	-	3.0	0.20	-	-	2.5
Q3	室外環境(敷地内)		-	0.30	-	-	2.5
1	生物環境の保全と創出	-	2.0	0.30	-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	-	2.0	0.50	-	-	2.5
3.2	敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	2.5
LR	建築物の環境負荷低減性		-	-	-	-	3.1
LR1	エネルギー		-	0.40	-	-	2.9
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPIm=0.64	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用(直接利用)	-	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		2.4	0.50	-	-	2.4
	集合住宅以外の評価		2.4	-	-	-	2.4
	集合住宅の評価		-	-	-	-	2.4
4	効率的運用に向けた取組み		2.2	0.20	-	-	2.2
	集合住宅以外の評価		2.2	1.00	-	-	2.2
4.1	モニタリング	-	2.0	0.40	-	-	2.2
4.2	運用管理体制	-	2.0	0.40	-	-	2.2
4.3	非化石エネルギーの導入の拡大	-	3.0	0.10	-	-	2.2
4.4	コミッションングの推進	-	3.0	0.10	-	-	2.2
	集合住宅の評価		-	-	-	-	2.2
4.1	モニタリング	-	-	-	-	-	2.2
4.2	運用管理体制	-	-	-	-	-	2.2
LR2	資源・マテリアル		-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマと節水機能などに加えて、節水型便器も採用している。	4.0	0.40	-	-	3.4
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	3.4
1	雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	3.4
2	雑排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	3.4
2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.60	-	-	3.0
2.1	材料使用量の削減	-	2.0	0.10	-	-	3.0
2.2	既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.20	-	-	3.0
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.20	-	-	3.0
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	型:断熱材	3.0	0.20	-	-	3.0
2.5	持続可能な森林から産出された木材	-	2.0	0.10	-	-	3.0
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS使用している。	4.0	0.20	-	-	3.0
3	汚染物質含有材料の使用回避		3.3	0.20	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用	-	3.0	0.30	-	-	3.3
3.2	フロン・ハロンの回避		3.5	0.70	-	-	3.3
1	消火剤	-	-	-	-	-	3.3
2	発泡剤(断熱材等)	ODP=0、GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。	4.0	0.50	-	-	3.3
3	冷媒	-	3.0	0.50	-	-	3.3
LR3	敷地外環境		-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率82%	3.7	0.33	-	-	3.7
2	地域環境への配慮		2.8	0.33	-	-	2.8
2.1	大気汚染防止	-	3.0	0.25	-	-	2.8
2.2	温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	2.8
2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.5	0.25	-	-	2.8
1	雨水排水負荷低減	-	3.0	0.25	-	-	2.8
2	汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	2.8
3	交通負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	2.8
4	廃棄物処理負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	2.8
3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	3.2
1	騒音	-	3.0	1.00	-	-	3.2
2	振動	-	-	-	-	-	3.2
3	悪臭	-	-	-	-	-	3.2
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	3.2
1	風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	3.2
2	砂塵の抑制	-	-	-	-	-	3.2
3	日照障害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	3.2
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	3.2
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの全項目に適合している。なお、広告物照明は設置していない。	5.0	0.70	-	-	3.2
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	3.2

6/59